

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	苫小牧市字植苗51番地の156		
自己評価作成日	平成23年3月11日	評価結果市町村受理日	平成23年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0153680046&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は作られているが、認識している職員、認識の浅い職員とバラつきがある。また、認識を持ち、実践につなげるよう努力をしているが、まだ不十分と感じる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り大会に一部の方ではあるが、参加されたり、畑作りの際に近隣の方からアドバイスを受けたり、花の提供を受けたり、一部でのかかわりはあるものの、日常的な交流には至っていない。帰宅欲求のため、毎日外出される方の状況に対し、運営推進会議を通し、参加された町内会の方には、意義や対応に関する認識を深めていただいている。また、共に歩く際に、近隣の方や小中学生と挨拶を交わしたり、会話を図るなど努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そうした取り組みは行なわれていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況や外部評価、避難訓練、実地指導等の報告が中心であり、意見などを活かした活動に繋がっていない。町内会の行事予定をお聞きすることで、参加への参考にしている。また、会議の内容について、職員と共有できていない為、職員との共有を図り、サービスの向上に活かして行きたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会の活動で定期的に市町村担当者と意見交換する場を設けている。また、運営推進会議開催の連絡により、積極的な参加を頂き、顔見知りの関わりの中で、日頃からの連絡・協力関係が築けていると考える。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しているが、法的根拠による理解を深める為の学習の場などは設けられておらず、根拠への認識が浅い職員もいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人理事長が年度当初に、内部研修において、直接職員全員に周知している。また、新任職員研修においても周知をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修や個人的に学びはあるが、職員全員に機会の提供は行っていない。活用の場はまだ無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の支援のあり方などを説明すると共に、ご本人やご家族等の思いを聞くように努め、利用に対する不安を解消できるよう関わりに配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族の参加を頂いているが、運営に対する率直なご意見・要望は出されていない。また、利用者の参加実績は無いが、今後参加してもらいたいと思っている。運営推進会議へ参加されるご家族以外においても、面会時に意見・要望を聞いており、反映するように努めている。 法人からは毎年、家族へのアンケート調査を行い、その結果をホーム内で閲覧可能としているが、外部者へ表せる機会としては、不十分と思われる。法人においては、苦情窓口を設置し、その手段について、入居時に説明を行ったり、掲示をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	そのような機会は設けられていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、人事考課制度を導入し、目標面接・考課測定を設けている。また、嘱託職員、パート職員に対しても年度末に自己評価、管理職による面接を行い、業務への反省、今後の目標設定を行っている。また、正規職員への登用制度を既に導入し、キャリアパス制度の整備を進めている。加えて、職員個人で、自分自身のやりがいやスキル向上に努めている方もおり、研修参加のための勤務の配慮を可能な限り行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人によるスキルアップ研修や新規・中途採用職員への研修、隣接する協力施設と合同の内部研修の機会を設けているが、勤務体制的に十分な参加は図られていない。また、外部研修においても、職員配置等の問題もあり、全員の参加は出来ていないため、充分とは言えず、今後も勤務の調整により参加を図って行きたいと思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会で交流する機会はあるが、参加できる職員の数に限りがあり、十分に出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族・ご本人と面談の機会を持ち、ご本人の意向を受け止める努力をしている。入所後においても、関わりや声掛けの機会を必要に応じて持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族・ご本人と面談の機会を持ち、入所に至るまでの意向を聞く場を設けている。入居後も、面接に関わる職員以外においても、面会時に声を掛け、お話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態の連絡、対応の相談、実施など、サービス内容が変更する都度のご家族との連携を図っている。(他事業所のサービス利用などに関しては、努力をしているが、その事実はない)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主に食事の支度、食事の時、お茶のみをしながらの時間に設け、生活の知恵や昔の苦勞、畑作業や季節行事のことなど、お聴きしたことを実践に活かせるように努めている。また、調理や漬物付けや菜園など、特定の利用者ではあるが、利用者主導で行なっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能なご家族には、通院対応や付き添いを依頼し、共にお身体の状態などを把握していただけるように努めたり、物品の購入や準備なども、ご家族へ連絡し、対応の可否を確認している。また、来訪時には、日常生活の様子を、ご本人を交えながらお知らせし、ご家族やご本人の要望を伺っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	疾病の特質により、ご本人から正確な情報が得られず、困難な部分もあるが、少数での外出時や通院時に、お聞かせいただきながら、自宅近くや過ごされた場所を見たり、行ったりしている。また、写真を見ながら、思い出話をしたり、他施設に入居されているご家族の面会、自宅への立ち寄りを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係把握に努め、関係を良好に保つための支援をしている。テレビ前のソファであったり、玄関ホールでのお茶のみ、談話できる空間作りをし、皆でお茶を飲む時間を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所後も、ご家族が遠方なため、様々な手続きの代行や面会、病院・家族との連絡などを行い、関係を断ち切らずに支援している。また、退所した利用者ご家族が、お立ち寄りいただく場面もある。退居時には、お困りの際には、ご相談いただけるよう、お声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際やその都度、生活の経緯をご家族から聞き取るなどし、今まで暮らしてきた、ご本人のライフスタイルを尊重し、起床時間や食事時間、就寝時間、活動など、個々にあった生活が送れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全体に情報が行き渡るよう、ファイルに綴り、いつでも確認できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に生活や身体状況、気分の変容、活動状況を記録に残すように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議でスタッフ間で検討をし、その上で、ご家族へ説明・相談・同意を得ている。また、ご家族が面会に来られた際に、会話を図り要望を伺い、計画に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し、スタッフ間で情報を共有している。特に排泄や食事の記録を別紙に記載している。また、気分の変容など、要観察の必要のある方に対し、別紙を随時設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する協力施設の専門職種から、指導やアドバイスを受けて、来訪したご家族への食事の提供など柔軟に努めたり、利用者の要望に応じた、食事メニューの急な変更などに応じるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	充分な地域資源の活用には至っていないが、隣接する施設で行なわれている催しや習い事も、資源の一つとして参加を行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時や特変時に関わらず、医療行為に関することは、相談・指示を受けながら支援に結び付けている。受診先の医療機関の希望を伺いながら対応し、その医療機関との関係構築を意識しながら、応対している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や特変時、日常の医療面に関することを、協力施設の看護師へ相談し、アドバイスを受け対応の参考にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、治療・療養に役立つよう、病院への情報提供（連絡先・身体・認知面・行動・生活状況）を行なっている。 また、入院中も面会に心掛け、入院期間の様子等を伺い、ホームに戻られた際に戸惑いがないように努めている。 医師、家族、職員の三者での話し合いの場を設け、相談しながら行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での話し合いは出来ていない。必要性が生じてきた段階において、方向性の話し合いを持ち、状態に応じ、事業所で出来ることの伝達や対応が難しい場合、その後の生活・療養の場に関する情報提供、関係機関への連絡・調整などの必要な支援を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修により全職員が研修を受けているが、実践力を身につけるために、繰り返しの訓練が必要と感じる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、ハーモニーを出火場所と想定した、火災時の避難訓練を実施している。 しかし、実践力を身につけるためには、繰り返しの訓練が必要と感じている。 また、法人単位での消防計画が作成されており、各施設の連絡や応援体制、自治体への連絡体制が体系化されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛けているが、充分とは言えず、声の掛け方について、都度職員間で声を掛け合い、改善に努めるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度本人へ確認のもと、支援、説明を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	不十分な時もあるが、出来る限り時間をずらさず、ご本人のペースで、その時の気分に応じ、関わられるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	突出していない限り、ご自身で選んだ洋服を勧めている。また、定期的に好みの美容室へ掛かるよう支援したり、髪の色染めの手伝いや、女性にはお化粧を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者を交え調理を行なっている（体調に配慮しながら、休んでいただくこともある）。また、調理以外でも、個々の得意とする場面で力を活かし、食器拭きや食材の下ごしらえなどのお手伝いしていただいている。調理の際は、器具や調味料など、ご本人の使用しやすいように準備している。畑で採れた食材を使うことで、楽しみにも繋がっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を利用して把握に努め、水分摂取を好まない方や形状に工夫の必要な方に、プリンやゼリー、好みに応じたものを用意している。また、食事は、ご本人の好み、体調に応じたものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の出来る範囲に応じて、物品の準備、声掛け、見守り、介助により支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の尿量や排泄間隔の把握に努めたり、行動を見てトイレ誘導を行い、失禁やパットの使用を改善していけるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬には頼らず、個々に合った乳製品、繊維質の摂取、歩行、腹部マッサージなどで、自然な排便を心掛けている。心的ストレスによる便秘もあると思われ、精神状況が穏やかに生活してもらえる様、更なるケアも意識している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の要望される時間にそって入浴してもらっている。また、入浴を好まない方へも、2～3日前からの声掛けを行い、タイミングを図り入ってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに応じた支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書で確認し、疑問点はかかりつけ医に確認をしたり、服用に関して薬剤師への相談を行なっている。また、誤薬防止の為、朝・昼・夕の日付を色分けで対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充分ではないが、生活歴からの趣味や活躍した内容に沿った、活動や会話を意識している。また、ホームに来られてから感じる、楽しみとなる活動（散歩やドライブ、食事会、菜園、季節の行事）の提供も心掛けている。日常の関わりにおいても、「笑い」に繋がる会話も意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間の頻度は少なくなるが、ドライブ、外食、通院、買い物、散歩、季節を感じていただくための花見、紅葉狩り、自宅を見に出掛けている。ご家族や地域との人々との協力は出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は、預からず、ご本人に任せている。自己管理が困難な方は、ホームで預かり、希望される物の購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が望む時の電話の支援を行なっている。手紙においても、希望があれば、必要な支援を行なっている。携帯電話を持っているが使用できない方には、使用の仕方を支援したり、ダイヤルをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光が入り、景色が見える位置にソファや畳を置き、集まって談笑する空間ができている。また、季節に合わせた飾り付けを取り入れ、心地よく生活出来るように工夫している。 トイレなど、頻回に床、便座などの清掃、汚物処理をし、臭いを防ぎ、清潔に利用できるよう、心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファ、横に畳スペース・座椅子があり、くつろぎの空間になっており、玄関ホールにもソファを置き、食事の席を含め、思い思いの場所でお過ごしいただけるよう、空間作りに配慮している。また、夏にはテラスに設置している、椅子・テーブルでお過ごし頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、今まで使っていた、使い慣れた馴染みの家具類を置き、居心地良く過ごしてもらえるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや手洗い場や自室が分かるように、名前や目印を付けるなどの工夫をしている。また、トイレや共用スペースには手すりを設け、個々の能力に応じ、必要な方には、自室内に手すりを設置し、自身による動作が促せるよう配慮している。		